



フレームワークを活用した自閉症支援

● 支援スタッフ 花本 千波



2月24日（月）にライフサポート協会が主催する「フレームワークを活用した自閉症支援で最＆高なスタートへ」の研修を受講してきました。「自立と般化をえる3つのアセスメント」・「フレームワークを活用して話そう！見せ合おう！楽しもう！」のテーマのもと、自立と般化やアセスメント、フレームワークなど教えて頂きました。

まずは自閉症、ADHDの特性についてです。自閉症、ADHDはやはり個別化が必要であり一貫性が大事だとおっしゃられていました。また、ユニバーサル設定（全体の設定）をしてから個別化にするということが基本と学びました。何事もそうですが、事業所全体で考え協力していくことが大事ということに改めて感じました。

また自立していくためにも1つ1つ丁寧に、個々にあったペースと環境でシンプルなことから始めていき、成功体験を積み、自立のために複雑な環境や様々な状況でも1人で出来るよう少しずつステップアップしていくことで地域の中で応用していけるようになるという事例にもとづいた話を聞くことができ、とても参考になりました。1つ1つ自立して出来ることを増やしていくということは私たちの事業所でも必要であり大切なことだと思います。簡単なことではありませんが、場面ごとに丁寧な支援をしていくということ、日々変化し般化していくことが大切であるとの研修で学びました。資料もあるので施設内で共有し実践していけたらと思います。

自主製品販売

UVレジンアクセサリ



陶芸

1つ1つ手作りで個性溢れる新しい雑巾で自宅の品です。食卓に潤いを！



雑巾

1枚
60円



- ・キーホルダー 300円
- ・アクセサリ（イヤリング・ネックレス等）300円～

研修実績 (R1.7.1～R2.3末まで)



| 月 | 研修名 | 受講者 |
|----|---|--------------------|
| 7 | 障がい児者施設課程（通所コース） てんかん基礎講座 法人全体研修（コミュニケーション） | 清水 富永・清水 全職員 |
| 8 | - | - |
| 9 | 強度行動障がい支援者養成研修 | 高橋 |
| 10 | 法人全体研修（事例検討） | 全職員 |
| 11 | 障がい者虐待防止・権利擁護研修 | 田村 |
| 12 | 強度行動障がい支援者養成研修（実践編） 法人全体研修（人権） | 高橋 全職員 |
| 1 | 多機関協働による支援会議のススメ 法人全体研修（高齢化に向けて） | 田村 全職員 |
| 2 | ダウン症ワークショップ フレームワークを活用した自閉症支援 | 隅倉・池上・池田 花本 |
| 年間 | eカレッジ | 富永 田村 |

※下記ホームページにてバックナンバーがご覧いただけます。

<http://toyonaka-sinwakai.or.jp/daini.html>

寄付・寄贈のお礼

(R1.6.1～R2.2末まで)



| 物品 | 寄贈者 | 日付 |
|-----------------|-------------------------------|-------|
| 空き缶 253,521円 | 地域・ご家族様等 | 6月～1月 |
| 20,000円 | 匿名 | 7月 |
| ポケットタオル | とよなかしんわかいごえんがいきま 豊中親和会後援会様 | 12月 |
| ジュース | 合同会社 すまいる様 | 12月 |
| 花苗 | プロジェクト様 | 12月 |
| 10,000円 | 第2みらい 家族会様 | 2月 |

第29号

MIRAINI



（編集・発行）
社会福祉法人 豊中親和会
生活介護事業所 第2みらい
（発行人）
岡本 啓

〒561-0846
大阪府豊中市利倉東2-1-15
TEL06-6867-0828
FAX06-6864-5634

御挨拶

第2みらい施設長

岡本 啓

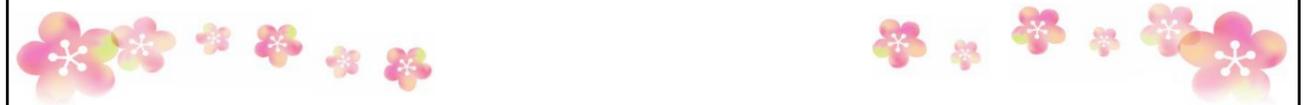


激動の2019年度も終わりが近づいてきました。今年度は元号が平成から令和に代わる大きな節目の年でした。また、ラグビーのワールドカップ開催や吉野彰さんのノーベル化学賞受賞、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録など明るいニュースがあった一方、相次いで台風が襲来し各地で甚大な被害をもたらしました。最近では新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各方面において様々な対応が求められています。

今年度は法人中長期計画の最終年度にあたり、この5年間の総括を行いました。高齢化や意思決定支援、後見人制度など支援に関わることから、人材確保や育成、グループホームやその他事業の運営に係わることなど、法人の抱える課題は多岐に亘っています。それらを踏まえ第2次中長期計画を検討しました。第1次中長期計画は法人として初めての中期計画でしたが、進捗管理の方法が計画作成の段階において検討されなかったことにより、絵に描いた餅で終わってしまった部分も多かったと反省しています。第2次計画においてはその反省点を踏まえ、計画作成後は実施項目に応じて実行部隊を編成し、進捗状況の管理を行いながら計画を着実に進めてまいりたいと考えています。

第2みらいにおいては、大規模改修の実施や健康診断の受診機関の確保などが大きな課題でしたが、皆様のご協力のおかげで無事に終えることができました。しかし、今年度も職員の確保に苦慮し、利用者の皆様にはご迷惑をおかけしたことと思います。

また、利用者の皆さんを取り巻く状況が年々変化をしてきており、特にそのことを痛感したこの1年でした。利用者の高齢化とともにご家族の高齢化は更に進んできており、同居するご家族がお亡くなりになられたことにより生活環境が一変した方もおられました。今後もそういったケースが増えてくることは明白であるため、第2みらいでの過ごし方だけではなく、生活全体を支えていくといった認識のもと、法人の内外を問わず、関係各所と連携して支援をしていくことが求められます。そのためには私たち職員一同は、これからも日々の利用者の皆様との関わりを大切にして、皆さんが充実した日常生活を送ることができるよう取り組んでまいりたいと思います。



が っ 　 か 　 きん
3月6日(金)
だい
第2みらいフェスティバル

今回の第2みらいフェスティバルは、新型コロナウイルス感染拡大予防のために、ご家族様を含めた外部の方の参加はお断りし、利用者の皆さんのみで開催させていただき運びとなりました。皆様のご理解とご協力をいただき、取り組みの内容を大幅に変更し各グループ活動として無事に実施する事が出来ました事に感謝申し上げます。



A&Bグループでは、ミニフェスティバル、茶話会をしました。ガラガラを回し、お菓子やジュースをGET！お弁当を食べた後、販売用の展示写真を見ながら、みんなでティータイム♪今年度の思い出を振り返りながら、ゆっくり過ごしました。

Cグループでは「フォトフレームづくり」をしました。ご自身で「選ぶ」「作る」「使う」という流れを体験してもらいました。何気ないことですがご本人にあった方法を模索や練習し、生活スキルとしていろんな場面で使えたらと思いました。(^^)



1グループでは、お菓子作りをしました。クレープの生地を作り、皆さんお好きな具材を選び、トッピングされています。ご自分で選んだ味を「おいしい」と笑顔でおっしゃって召し上がっています。



2グループでは、午前は色ぬりや工作をして作業室で過ごしていただき、午後は伊丹の自販機カフェに行きました。飲み物だけでなくスナック菓子やカップ麺、パンにどら焼きまであり、普段見慣れない自販機に皆さん興味津々。お菓子と飲み物をいただきながら、まったりと過ごしました。

3グループでは、温かい日差しの中、服部緑地で梅を見ながら散策しました。子供や家族連れが多く賑やかな園内でお小遣いでジュースを購入、お菓子をシェアして皆で楽しい時間を過ごしています。



研修報告



門塾

●第2みらい主任 田村 良子



昨年、9月から12月にかけて全5回の連続講座を受講してきました。主な内容は障がい理解と、コミュニケーション支援についてでした。利用者みなさんの日常の中で、一番本人が困っている事は自分の思いが伝わりにくい事ではないでしょうか。この門塾では特にABA応用行動分析とPECSという方法でのコミュニケーションを学びました。絵カードや文字を使って文章を組み立て、相手に伝えます。実際に当事者の方がPECSを用いて表出コミュニケーションをされる様子等も動画で見せて頂きました。自分の思い、伝えたい事が伝わりにくいもどかしさ、そこをクリアできればどれだけ世界が広がるでしょうか。自分で選ぶ事、自分で決定する事、自分で行動できる事、そこから次の目標への意欲へつながり、その人らしい生き方ができるのだと思います。この門塾を通して意思決定支援の本質を学ばせて頂きました。現場でも学んだ事を職員に伝え、良い支援につなげたいと思います。

ダウン症ワークショップ

●支援スタッフ 隅倉 佳恵



今回、ダウン症ワークショップの研修に参加させていただきました。未就学児-小学生-中学生-高校卒業の進路選択-高齢化(認知症)それぞれの中で見据えるポイント、支援の方法で大切にしていることなどの7つの事例発表がありました。乳児期においては生活の中でかかわりを大事にしなが興味を模索し、さまざまな療育を実施されてきました。学童期においては、社会生活における対人的な関わりの中で、適応が求められるようになります。そのために大切なことをわかりやすく伝えること、環境が変化するときにはゆっくりと慣れるまで時間をかけていくことを意識されていました。また、ダウン症と一言にいても、発達、成長には大きな個人差があるので、ダウン症の障害特性にとらわれず、その方の個性、それぞれの状況や家庭事情等に合わせて、継続的・永続的に関わっていくことがとても大切になります。高齢期において、ダウン症の方と認知症との関係は大きく、若年齢で認知症と診断される率も高くなっているとのことです。第2みらいにおいても、高齢化は目に見えてすすんでおり医療との関わりも必須となってきます。認知症に限らず、日中ご利用者と長く関わっている私たち支援者が様々な視点からいち早く異変(初期症状)に気づき、その後の支援方法また医療的ケアを含め、検討する必要があると感じました。